

# 第5・6学年 音楽科学習指導案

場所:多目的ホール

## 1 題材名

音楽の旅

## 2 題材の目標

- (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音に気を付けて歌う技能を身に付ける。(知識・技能)
- (2) 旋律や音色、音の重なり、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、演奏のよさを見いだして聴いたりする。(思考・判断・表現)
- (3) 我が国や諸外国に伝わる音楽の特徴や、それらと人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、多様な音楽やその表現に親しむ。  
(主体的に取り組む態度)

## 3 題材構成の意図

本学級の児童は、5年生10名(男子4名女子6名) 6年生5名(男子4名女子1名)計15名の複式学級である。日本の音楽には、両学年とも3年生の時から「わらべうた」を通して、他者と関わる力を育みながら「拍感」「リズム」「音の高低」「問いと答え」「繰り返し」等の音楽の要素を学び、さらに6年生は、日本の5音階や和太鼓による「音楽づくり」を通して自発的・創造的な活動を積み重ねてきている。

本題材では、日本の音楽の中で特色が顕著である沖縄、富山、北海道の音楽に親しむことから、世界に伝わる多様な音楽に視野を広げ、よさや面白さを感じ取ったり、音楽と生活とのかかわりに気づいたりすることをねらいとしている。

本時は、日本の音楽から世界の音楽へ視野を広げる教材としてアイヌ民族の音楽を取り上げる。原瀬小学校は20年近く、地域に伝わる民俗芸能「原瀬の太々神楽」の伝承活動を行っており、6年生は昨年保存会の方の手から手へと学び演じ、5年生も2学期に伝承活動を行う。アイヌ民族の音楽は、踊りという点で神楽と、倍音の音楽という点でモンゴルのホーミーと共通点があり、かつ独特の特徴をもっていることから日本でありながら異文化の特徴をもっている。アイヌ民族の音楽は楽譜を介せず「口から口へ」と伝承されてきたことから、映像資料を活用して半直接的に伝承者から「丸ごとまね」(学ぶ=まねぶ)し体験する。その際、西洋音楽や「原瀬の太々神楽」と比較し、アイヌ民族の音楽との共通点・相違点から問いや気づきを引き出し、アイヌ民族の音楽の特徴に気づかせ、その上で鑑賞することで表現と鑑賞の一体化を図っていく。また、社会科「あたたかい・寒い土地の暮らし」や家庭科「小物を作ろう」、総合的な学習「原瀬の太々神楽を舞おう」と関連づけ、教科横断な単元構成をすることによって、音楽文化の背景にある人々の生活や思いを多面的に知ることでより深い学びにつなげ、生活の中にある多様な音楽の特徴やおもしろさ・よさに気づき、豊かに関わろうとする姿を目指したい。

## 4 題材の計画 (総時間 7 時間)

時	場面	学習活動(夢中に学んでいる姿)	資質・能力	関連教科
1	見通す	沖縄民謡を聴き、歌い方や旋律の特徴、伴奏に使われている楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りながら歌う。	沖縄民謡の曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解している。(知)	5年【社会科】「あたたかい土地の暮らし」5年【社会科】「寒い土地の暮らし」 【総合的な学習】「原瀬の太々神楽を舞おう」 5・6年【家庭科】「小物を作ろう」
2	考える 対話する	楽譜を使わず「こきりこ」の実際の映像を見ながら歌を聴き、声の出し方や節まわしなどの特徴について感じ取ったことを図や記号に表し、気づいたことを出し合う。	我が国の音楽の旋律や音色、拍などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏のよさを見いだして聴いている。(主・思)	
3	習得する	「こきりこ」の演奏の映像を見ながら、演奏に使われている実際の楽器と踊りを体験する。	日本の民謡の特徴を意識しながら、「こきりこ節」を演ずることができる。(技)	
4	振り返り 生かす	「追分節様式」(無拍のリズム)と「八木節様式」(有拍のリズム)の民謡を聴き、「こきりこ節」と類似点や相違点を出し合い、それぞれのよさを味わう。	「こきりこ」の学習で学んだ日本の民謡の特徴を意識しながら聴くとともに、声の出し方やかけ声、囃し言葉などの違いや共通点を意識して聴いている。(思)	
5 (本時)	考える 対話する	アイヌ民族の歌と踊りを、実際の映像を通して体験しながら、その背景にある生活やものの考え方との関わりを知り、アイヌ民族の音楽文化の特徴を味わう。	我が国に伝わる音楽の特徴や人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。(主・思)	
6 ・ 7	振り返り 生かす	世界の特徴的な音楽(ホーミー・ケチャ)を映像や教師の声を見聴きしながら部分的に体験し、声や歌い方・楽器の音色や音の重なり方の特徴などの類似点や違いなどに気をつけて鑑賞する。	諸外国に伝わる音楽の特徴や、それらの音楽と人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、それぞれの演奏のよさを見出して聴くことができる。(主・思)	



題材を通して育成したい子どもの姿

直接・半直接的な体験を通して、日本や世界の生活の中にある多様な音楽の特徴やおもしろさ・よさに気づき、豊かに関わろうとする姿

## 5 本時のねらい

アイヌ民族の歌や踊りの特徴に気づき、表現や鑑賞を通して「アイヌ民族の音楽文化」に親しむことができる。

## 6 学習過程

	学習活動・内容 (T 主な発問・C 児童の反応)	時間	○指導の留意点 【共＝共通事項】 ◎研究主題に迫る手だて ◇評価
課題設定	1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポポ)を聴き、思ったこと気づいたことを発表し合う。 T: 何か気がついたことはありますか? C: 日本語ではないみたい。 C: いつもと声の出し方が違う。 C: 拍に合っている。 <b>「学ぶ＝まねぶ」しながら、アイヌの人々の音楽の特徴を見つけよう。</b>	5	○ 導入で、教師が歌うアイヌの座り歌「イカムツーカーサンケー」を聴くことによって、どこの音楽だろう、誰が歌っているのだろうかという気持ちを引き出す。  ○ アイヌ民族の音楽であることを知らせ、独特な音楽をもっと知りたいという気持ちを高め、本時のめあてにつなげていく。
課題解決	2 アイヌの歌と踊りの特徴を知り、歌や踊りを体験する。 (1) 映像に合わせ、動きもまねながら「イカムツーカーサンケー」を歌い、これまで歌った西洋のカノンとウポポを歌った時との違いを話し合う。 T: 気づいたことはありますか? C: 同じ言葉を繰り返している。 C: 2つに分かれている。カノンになっている。 T: ヨーロッパのカノンと比べて、違いはあるかな? C: 声の出し方が違う。歌声がゆれている。 C: 何かを叩いていて、それに合わせて歌っている。 (2) アイヌの人々の考え方やくらしを紹介する映像を視聴する。 (3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽の巫女舞」と比べ、その特徴を味わう。 T: どんな生き物の動きを表しているのでしょうか? C: かがんで大きく手を振っている。 T: パッタです。やってみましょう。 T: 巫女舞の足の動きと比べてみましょう。 C: 巫女舞はすり足で歩いている。足音がない。 T: 足を踏みならすのは、悪霊を踏みしめる意味があります。	20 7 6 7	◎ 「イカムツーカーサンケー」の映像を見てまねをしながら歌い、声の出し方や節回しを体感し、これまで歌ってきた西洋音楽のカノンの声の出し方や拍の感じ方の違いなどに気づくことができるようにする。 <b>【共: 音色・旋律・拍の流れ・反復】</b>  ○ アイヌの人々のくらしや考え方が、音楽にも密接に関係があることを知ることでアイヌの歌や踊りへの理解を深める。 ◎ 6年生が昨年体験した「原瀬の太々神楽」の足の動きと比べることにより、アイヌ古式舞踊の足の動きの特徴に気づけるようにし、手足の動きの意味を全身で感じながら「パッタキリムセ」を体験できるようにする。 ◇ アイヌの歌や踊りを体験しながら、その特徴に気づくことができる。(発言) <b>【共: 音色・拍の流れ・反復】</b>
	3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルンリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 T: どんなことに気がつきましたか? C: 声の出し方が、鶴の鳴き声みたい。 C: 手の動きが、つばさの動きを表している。 C: 歌や動きを繰り返している。	7	◎ 歌声や動きから気づいたことを交流し合うことで、アイヌの歌や踊りの特徴をより意識した鑑賞につなげる。 ◇ 体験したことをもとに「サロルンリムセ」の特徴を意識しながら鑑賞することができる。(発言・ワークシート) <b>【共: 音色・旋律・拍の流れ・反復】</b>
振り返り	4 本時のまとめと次時の学習への見通しをもつ。 (1) アイヌの音楽の特徴を発表し、本時のまとめをする。 <b>歌声が独特で、歌がカノンになっていたり、自然の動きを踊りにしたりして、自然への思いを歌や踊りで表している。</b> (2) アイヌの民族楽器「ムックリ」(口琴)の音色を聴き、次時への興味をもつ。	13	○ 体験したり鑑賞したりして気づいた「アイヌの音楽」の特徴を発表し合うことで共有化を図り、本時のまとめとする。 ○ 「ムックリ」の音色だけを聴かせることで形状や音ができ仕組みに興味を持たせ、次時への意欲付けを図る。

## 7 板書計画

アイヌ刺繍の衣装	アイヌ＝人間 カムイ＝神 ウポポ→座り歌 リムセ→歌と踊り チセなどの写真資料	<p>① 「学ぶ＝まねぶ」しながら、アイヌの人々の音楽の特徴を見つけよう。</p> <p>(子どもが気づいた特徴)</p> <p>② 歌声が独特で、歌がカノンになっていたり、自然の動きを踊りにしたりして、自然への思いを歌や踊りで表している。</p>	「パッタキリムセ」の歌詞
----------	---	--	--------------